

『AAG, 2007 Annual Meeting』参加報告書

平成 17 年度入学
派遣先学会：AAG Annual Meeting
長倉 美予

自然環境，土地利用，山岳地，レソト王国

1. 学会について・学会に関するコメント

AAG Annual Meeting は，Association of American Geographers (AAG)が主催し，毎年世界中から 6,500 人を超える地理学および関連する分野の専門家が参加する国際的な学会である。本学会は，地理学における研究・教育・業績および開発などをめぐる議論を通し，研究者同士の交流を図ることを目的としている。

今年は 2007 年 4 月 17～21 日の 6 日間にわたってカリフォルニア州サンフランシスコで開催された。観光，水資源，都市，開発途上国，ジェンダーなど 60 を超えるセッションが生まれ，派遣者は“アフリカの土地制度”というサブセッションで発表した。



サンフランシスコの中心地ユニオン・スクエア（左）



会場となったヒルトン（右）

2. 派遣者の発表と質疑応答の内容

発表タイトル: Agro-pastoral land use in relation to natural environments in a mountain area of Lesotho

発表者名: Miyo Nagakura

本研究の目的は，アフリカ南部に位置するレソト王国において，山岳地域の住人がどのように自然環境を生活に取り入れているかを，土地利用との関わりを通して明らかにすることである。まず調査村内

の自然環境を定量的に調べるため、地形分類のための測量、気温測定、土壌調査のための試坑などを実施した。その結果、調査村は5つの異なる特徴を持つ地形面―標高の高い順から、山地斜面・崖錐・段丘面・段丘崖・谷斜面―に分類することができた。また夜間になると、冷えた空気が谷底に溜まる現象である冷気湖が発生することも明らかになった。住民はこうした5種類の地形面を耕作地・放牧地として居住地に使い分けており、自然環境の条件が効率的に利用されていた。例えば居住地は、山地斜面と崖錐という異なる地形面が接する傾斜変換点に位置するため、多くの湧水が周囲に見られ水場へのアクセスを容易にしていた。さらに比較的標高の高い場所にある居住地は、夜間谷底に形成される冷気湖の冷え込みを免れていた。以上の調査結果より、村内には5種類の地形面という特徴を異にする自然環境があることが客観的データに基づいて示され、それぞれの自然環境の特徴が土地利用に反映されていることが明らかとなった。

質疑応答は人間活動に関する話題に集中した。住居の建築材料には山地斜面から採取した玄武岩が利用されているが、それに関わることや、崖錐と谷斜面にそれぞれある2つの耕作地における栽培作物の違い、商品作物が栽培される耕作地の条件、また、放牧される家畜の種類や放牧地として利用される場所についての質疑があった。

3. 学会参加により得られた新たな知見

セッション数の多さから理解できるように、本学会では実に様々なテーマにもとづいた研究が多数発表されていた。アフリカというキーワードを1つ取り上げても土地所有、人の移動、植生変化、生業変遷などのテーマに沿って研究発表があり、それらの発表を聞くことは複数の側面から自身が研究対象とする地域を考える上で参考になった。

4. その他学会の発表テーマを俯瞰的にみた感想・近年の動向について

本学会が包含する研究領域の広さは前述したとおりだが、文化地理学や社会地理学などの人文地理の領域が特に多くなっている。中でも近年は政治地理学を扱った研究が増えているのが特徴的である。

5. 今後の研究に今回の学会参加がどのような影響を与えたか

派遣者の発表内容は、測量によって得られた客観的なデータに基づく村内の自然環境に焦点を当てたものだったが、参加した土地所有に関するセッションでは、住人がどのような社会的システムの中で土地利用を実践しているのかが中心的に議論されていた。このため、派遣者の発表に対する質疑も住民の側の視点にたったものが多かった。本学会での発表をとおして、今後は、人びとが自然環境の特徴を効率的に土地利用に取り入れながら、どのような社会的或いは生業のシステムを成立させているのかという人間活動に関する視点を加えることで研究を深めていく重要性をつよく感じた。